

東京大学大学院 人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣 帰国報告

1. 派遣生の基本情報

氏名：川瀬さゆり

所属：文化資源学研究専攻 形態資料学専門分野（博士課程 2年）

派遣カテゴリー：平成 22 年度夏個人派遣・大学院生

2. 研究テーマ

「1830年代～50年代におけるシャルトルのカテドラルの修復をめぐる国・地域の関与実態」

3. 派遣先での活動

(1) 派遣先の基本情報

シャルトル、パリ（フランス）

- ①ウール・エ・ロワール県古文書館（Archives Départementales d'Eure et Loir）
- ②シャルトル市資料館（Médiathèque de Chartres）
- ③フランス国立図書館（Bibliothèque Nationale）

(2) 派遣期間

出発日：2010年8月13日

帰国日：2010年10月11日

総日数：61日

4. 主な研究成果

(1) 当初の計画の概要

本研究は、1830年代から50年代にかけて行われたシャルトルのカテドラルの修復について、当該の修復実態およびこの修復をめぐる国・当該自治体・市民の関与実態を明らかにすることを目的とする。今回の個人派遣では、上記の修復に関する各種史料・文献について現地調査・収集を行うことを主な課題とする。

(2) 実際に達成された成果

ウール・エ・ロワール県古文書館では、Serie V という史料群の調査を行った。その結果、本研究の核となる 1836 年の大火後の修復に関する史料 Serie V37, V38, V54, V55, V63, V64, V65, V67, V68, V69, V70, V71, V72, V73, V74, V75 を確認し、記録収集することができた。また、同館所蔵のグラビュールや図面などの視覚資料も併せて調査することができた。

シャルトル市資料館では、19 世紀のカテドラルに関する同時代の各種文献および新聞記事の調査を実施した。その結果、本研究に関連する同時代の重要な記述をいくつか見つけることができた。

さらに、ウール・エ・ロワール県古文書館研究員ジョリー氏とシャルトル市資料館職員ピアンカレツリ氏の助言を得て、シャルトル市役所古文書課 (Archives municipales)、県建築・文化遺産局 (SDAP)、司教区古文書室 (Archives diocésains) などの各機関を訪問する機会に恵まれ、本研究にとって重要な史料を入手することができた。

フランス国立図書館では、当該の修復と同時期にラシュスらによって制作された *Monographie de la Cathédrale de Chartres* の調査を行った。合わせてフランス国立図書館のアルスナル館、国立美術史研究所 (INHA)、サント・ジュヌヴィエーヴ図書館所蔵の *Monographie de la Cathédrale de Chartres* の各版についても調査を実施し、現存する *Monographie de la Cathédrale de Chartres* の全体的な調査を進めることができた。またシャルトルの各機関で入手した史料の一部についても検討を進めた。

以上の結果、本研究にとって不可欠となる史料の大半を確認・収集することができ、博士論文の方向性を固めることができた。また、一部史料の検討を進めた結果、19世紀前半の修復に関する基礎的事実および議論すべき点が明らかとなった。

(3) 今後の研究展望

今回の調査・検討によって、これまであまり研究されてない19世紀前半におけるシャルトルのカテドラルの修復に関する基礎をある程度築くことができた。今後は収集した史料に基づき今回明らかとなった問題点についての検証を進め、当時の修復実態を検討していくとともに、当該の修復をめぐる国・自治体・市民の関与の実態についても検討を進めていく。



シャルトルのカテドラル



Monographie de la Cathédrale de Chartres, 1867



現存する *Monographie de la Cathédrale de Chartres*, 1867 の各判